

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成30年度採択）

中間評価（案）（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評 価
30-3	学習型モニタリング・交通流動予測に基づく観光渋滞マネジメントについての研究開発	東京大学大学院 教授 布施 孝志	B
<p><研究の概要></p> <p>交通ビッグデータを活用した学習型の交通状態モニタリング手法及び交通流動予測手法を開発し、両者を統合して高精度化させた上で、エリア内の交通流動を改善するための適応型交通需要マネジメントスキームを構築する。また、提案手法を観光交通イノベーション地域等で試行し、実効性の高い渋滞対策等の検討に資する知見を提供する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>学習型の交通状態モニタリングシステム、交通流動予測システムの構築を進め成果をあげている。しかし、これらの観測・予測システムと交通流動マネジメントとの間の関係性が明確でないなど課題がみられることから、指摘事項に留意しながら現行のとおりに推進することが妥当であると評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 交通状態モニタリングシステムおよび交通流動予測システムと、交通流動マネジメントとの関係性を明らかにするとともに、これらを連携させ、一体化した枠組みを明確に示していただきたい。このために必要であれば、研究計画を修正いただきたい。 2. 研究対象としている鎌倉の道路交通は、他都市とは異なる性格を有しているため、開発しているシステムの汎用性について確認することが望ましい。 3. エリア内課金など、観光渋滞マネジメント施策につながる実務上有益な示唆が得られることを大いに期待する。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第36回新道路技術会議において審議したものである。